

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

平成 26 年 度 事 業 報 告

はじめに

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会では、「中期経営計画」（平成26年3月策定）における、「地域から頼られ、地域の願いにこたえられる社協」を目指す姿として、様々な事業を展開している。事業を展開するにあたっては、地域福祉活動計画（平成21年3月策定）に掲げる「当事者の力を生かす」、「地域の力を生かす」、「関係諸機関を繋げる」を取組みの柱として、課題を抱える当事者の支援にあたった。

重点事項

- 1 各地域（事務所）の地域福祉ニーズに応じた独自事業の展開
- 2 生活総合支援会議の充実強化
- 3 ボランティアの育成とネットワーク化
- 4 法人後見事業の実施
- 5 職場内外での研修の強化充実
- 6 赤い羽根共同募金などの民間資金の活用

第1 当事者の力を生かす取組み

同じ課題を抱えた当事者同士の各種活動への支援、当事者自身が力を発揮できる環境づくり、組織化の促進を行うと共に課題解決を図れるように取組んだ。

1 福祉総合相談事業 (市補助 1,475千円)

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

(1) 心配ごと相談の実施

32人の相談員を委嘱し、次のように「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	毎週火・金曜日 (13:00~16:00)	廿日市市総合健康福祉センター (あいプラザ)	102回	80件
佐伯	毎週水曜日 (13:00~16:00)	佐伯社会福祉センター	51回	9件
吉和	原則第1・2・3水曜日 (13:00~16:00)	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	34回	5件
大野	毎週木曜日 (13:00~16:00)	大野福祉保健センター	51回	38件
宮島	原則第1・2・3月曜日 (13:00~16:00)	宮島福祉センター	32回	5件

(2) 福祉総合相談の実施

事務局と各事務所で実施。開設日時は、土・日・祝祭日を除く毎日9:00~17:00。

(3) 専門相談の実施

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	合計12回 (廿)計10回 (大)計2回	47件 (廿日市開催)
			4件 (大野開催)
認知症介護相談	認知症の人と家族の会・廿日市	4回	6件
	認知症の人と家族の会・大野	12回	22件

(4) 心配ごと相談員研修の開催

心配ごと相談員の専門性および資質向上のための研修会を開催した。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6月・9月・12月・3月	なし	なし	3月	2月

(5) 全相談件数等の前年度との比較実績

項目	26年度	25年度
全相談件数	398件	335件
心配ごと相談開設回数	270回	271回
専門相談開設回数(司法書士・認知症)	28回	28回

2 福祉サービス利用援助事業（県社協委託 7,282千円）

判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員等への周知に努めつつ、福祉サービス利用援助、日常的金銭管理、重要書類等預かりサービスを実施した。

(1) 実施状況

ア 契約状況

新規相談：22件（うち契約16件）

イ 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
55人	5人	1人	15人	5人	81人

ウ 事業開始からの契約件数累計

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
契約件数	112件	27件	57件	20件	216件

エ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
2,131件	1,692件	2,922件	1,158件	7,903件

(2) 生活支援員の確保・研修の充実

ア 実施体制の充実：生活支援員が担当しているケースについては随時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

イ 生活支援員人数（地域別）

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	大竹	計
13人	3人	1人	9人	1人	1人	28人

ウ 生活支援員の資質向上のための研修会を開催した。（年3回）

主催	開催日	内 容	参加者
市社協	第1回 4/24	本事業の事業報告 グループワーク「生活支援員の役割と課題」	16人
	第2回 1/30	「わかりやすい！成年後見制度の概要と実際の活動について」 講師： 谷川社会福祉事務所 社会福祉士 谷川ひとみさん	16人
県社協	3/16	平成26年度権利擁護セミナー	5人

(3) 関係機関との連携強化

ア 自立支援ネットワーク権利擁護部会へ参加し、権利擁護についての考え方、課題整理、研修会の開催等、関係機関で協議した。

イ 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議の開催（2月25日）

広島弁護士会、リーガルサポートひろしま、廿日市金融機関懇親会、県西部厚生環境事務所、廿日市市社会課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民生委員児童委員協議会、県社会福祉協議会等による運営連絡会議を開催した。

ウ ケース会議等

多問題世帯や社会的孤立状態にある人など、対応苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を、関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部署、福祉施設、病院、民生委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。様々なケースを通して、関係機関と連携して支援を行な

ったことで協力関係が強化された。

エ ケアマネージャー連絡会議、やすらぎ支援員研修等において事業説明を行なった。

(4) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

ア 福祉サービス利用援助事業の専門員および担当職員を複数配置し、実施体制を強化するとともに、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。

イ 会議等開催、参加状況

主催	運営連絡会議	1	ケース会議等	10
	生活支援員研修会	2	社協内担当者会議	9
	法人後見運営準備委員会	1		
参加	専門員実践力強化研修会Ⅰ	1	権利擁護部会研修会	2
	専門員実践力強化研修会Ⅱ	1	中国ブロック専門員研修	1
	専門員連絡会議	2	相談援助技術向上研修	1
	はつかいち福祉ネット権利擁護部会	3		

相談援助職としての技量の向上を目的とした専門員実践力強化研修会Ⅱ（全社協主催 2月27日～3月1日）を受講。事例検討をもとに、地域のなかでの関係機関との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を習得した。また、家計相談支援推進セミナー（島根県社協主催 11月18日）では、本人とともに長期的・短期的目標を設定し、継続的に関わることで信頼関係を築きながら、目標に向けて本人主体で取り組んでいく援助技術等について学んだ。

3 法人後見事業（自主 32千円・新規）

認知症、知的障がい及び精神障がい等の理由で判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らし続けられるよう、本会が法人として成年後見人等を受任するために、事業実施に必要な要綱の整備、定款変更及び人材育成等を行った。

所管庁、広島法務局での手続き終了後、平成27年1月21日に広島家庭裁判所へ実施の届け出により実施手続きを完了し、本事業を開始した。

(1) 法人後見事業実施に向けての準備

ア 法人後見事業準備運営委員会の開催

弁護士、司法書士、民生委員児童委員協議会、行政等により構成した「法人後見事業準備運営委員会」を開催した。平成26年2月25日開催の第1回に引き続き、専門的かつ広域的視点から実施方針や要綱設置等について審議した。

開催日	内 容	参加者
7/9	1 広島県内の市町社協による法人後見事業の実施状況等について 2 本会における法人後見事業の実施方針について 3 今後の手続き等について	21人 (委員12人、事務局9人)
10/21	1 本会における法人後見事業の実施方針について(確認) 2 法人後見事業関連要綱の整備について	20人 (委員12人、事務局8人)

イ 役員・職員勉強会の開催、各種研修会等への参加

担当職員の資質の向上及び意識統一、適切な実施方針検討のための意見交換等を目的

に次のとおり開催、参加した。また、既に法人後見事業を実施している市町社協を訪問し、考え方及び実務等について研修した。

開催日	内 容	参加者
7/17	【関係職員勉強会（第1回）】 1 広島県内の市町社協による法人後見事業の実施状況等について（広島県社協から情報提供） 2 廿日市市社協におけるかけはし事業契約者の現状について（成年後見制度活用の必要性の検討と人数把握） 3 本会による法人後見事業の実施内容の検討	13人（県社協職員1人、会長、事務局職員11人）
9/19	【役員、評議員及び事務局職員合同研修会】 1 福祉サービス利用援助事業及び後見制度について 講師：広島県社会福祉協議会 あんしんサポートセンターかけはし主任 的場 淳子さん	36人（理事6人、監事3人、評議員15人、職員13人）
10/10	2 本会による法人後見事業実施準備の進捗状況と実施方針等について	理36人（理事4人、評議員6人、職員26人）
2/4	【先進市町社協訪問研修】 ○ 江田島市社協及び東広島市社協を訪問 1 所内での情報共有及び決裁手続き等について 2 行政と連携体制の構築について 3 成年後見実務等について	2人
3/3	【関係職員勉強会（第2回）】 1 法人後見事業実施上の留意事項と今後の方向性 2 事例検討 講師：谷川社会福祉士事務所 社会福祉士 谷川 ひとみさん	9人（会長、事務局8人）

ウ 各種研修、勉強会等への参加

広島県社協や家庭裁判所実施の勉強会、担当者連絡会等に参加することで、県内の成年後見制度推進の状況、他市町社協の実施状況等について情報収集、協力関係の構築に努めた。

開催日	内 容	参加者
10/22	【成年後見制度勉強会】 1 講義：受任から終了までの流れ 2 ワーク：受任直後の事務、初回報告から定期報告までの事務	2人
12/15	【成年後見制度推進団体連絡会議】 1 成年後見制度の推進に係る広島県の方針等について 2 実践報告：社協が取り組む権利擁護事業について 報告：福山市社協、安芸太田町社協	2人
2/22	【法人後見事業担当者連絡会議】	2人

	1 法人後見事業実施状況等報告 2 実践報告：取組みの状況、実務を行う上での工夫等報告：呉市社協、東広島市社協	
--	------------------------------------------------------------	--

エ 広報

広島県社協と共催により「成年後見セミナー」及び「成年後見相談会」を実施し、成年後見制度の普及啓発を図った。

【開催日】平成 26 年 9 月 14 日(日)

【主な内容】

- 1 講演会「知っておきたい成年後見制度」
講師：水中・三崎法律事務所 弁護士 水中 誠三さん
- 2 実践報告「地域で安心してくらすために」
講師：平岡社会福祉士事務所 社会福祉士 平岡 和子さん

(2) 事業実施

ア 運営委員会及び後見支援会議の実施

法人後見事業を実施するに当たり、受任の適否の判断、後見事業の指導を行い、後見事業実施における適正さの担保のため両会議を設置、実施した。

開催日	内 容	参加者
2/12	【後見支援会議】 1 第一回法人後見事業運営委員会の開催について 2 新規受任事案について	9 人 (会長、事務局 8 人)
2/17	【運営委員会】 1 本事業の実施方針について (確認) 2 新規受任事案について：福祉サービス利用援助事業「かけはし」契約者 3 件について審議	20 人 (委員 7 人、県社協職員 2 人、会長、事務局 10 人)

イ 広報

廿日市市社協だより「あいとぴあ」への掲載、はつかいち福祉ねっと研修会や小規模多機能事業所等での事業説明を通して、事業実施について周知した。

ウ 成年後見人等候補承諾依頼に関する審議、承諾

成年後見人等候補承諾依頼者 3 件について、運営委員会にて承諾の可否について審議。ここでの承認を経て、この 3 件の成年後見人等候補者になることを承諾した。

4 高齢者関連事業

(1) 認知症高齢者等支援事業 (市委託・自主・共募 709 千円)

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次の通り事業を展開した。

ア 認知症にやさしい地域づくりネットワーク形成

はいかい SOS ネットワークを運営し、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
8 件	7 件	170 人

(ア) はいかい SOS ネットワーク運営連絡会議の開催 (7 月 17 日)

(イ) 啓発活動の実施

関係諸機関と連携しながら啓発活動を実施した。

開催日	会場	内 容	参加者
9/14	大野福祉保健センター	「認知症予防への挑戦」 講師：鳥取大学 医学部 教授 浦上克哉さん	240 人
10/7	フジグラン ナタリー	はつかいち介護の日PRイベント	
10/29	あいプラザ	認知症介護者のつどい	32 人
12/20	あいプラザ	「食べる障がいと口腔ケア」 講師：日本赤十字広島看護大学 特任教授 迫田 綾子さん	70 人

イ はいかい高齢者家族支援サービス

位置検索端末機の貸出実績 3 台（保有台数 10 台）

ウ 認知症高齢者支援会議

年 6 回、関係者が集まり、認知症関連事業の取り組みについて協議した。

エ キャラバン・メイト及び認知症サポーターの養成

(ア) キャラバン・メイト養成研修の開催（大竹市との共催）

認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトの養成を行なった。
(3/9 開催 参加者 31 人)

(イ) 認知症サポーター養成講座の開催（地域・職域・学校）

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、サロン、ファミサポ会員他	16 回	644 人
職域	信用金庫、薬局、市高齢介護課・社会課	4 回	86 人
学校	山陽女子短期大、津田小、大野西小	3 回	260 人
計		計	23 回

(ウ) 地域別の取組み

【佐伯地域】

- ・キャラバン・メイト連絡会等の開催

日時	内 容	参加者
8/8	キャラバン・メイト連絡協議会運営委員会	10 人
9/19	佐伯・吉和地域キャラバン・メイト連絡会	13 人
10/26	「心と心のハーモニーフェスタ」にて、寸劇上演およびパンフレット配布	9 人
1/22	キャラバン・メイト連絡協議会運営委員会	8 人

- ・認知症サポーター養成講座の開催

日時	内 容	受講者
11/10	認知症サポーター養成講座・津田小学校	27 人
2/23	廿日市市老人クラブ連合会佐伯支部 「友愛クラブ」	132 人

【吉和地域】

- ・吉和地域のキャラバン・メイトと地域包括支援センターと連携し紙芝居を発表した。これを通して、認知症の人への対応方法や正しい知識の周知に努めた。

【大野地域】

- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会 (5/8)
- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会プロジェクト (年 6 回)

【宮島地域】

・大野地域のキャラバン・メイトと協働し、宮島地域住民を対象に、寸劇、DVD を使用した講座を開催し、認知症の人や症状への理解促進に努めた。

(2) 高齢者家事援助事業 (廿日市・佐伯・吉和 市委託 0千円)

介護保険で自立と判定されたひとり暮らしの高齢者などを対象に、市からの委託により支援員の派遣を行う。昨年度については該当者がなかった。

利用者	0人(2人)	サービス提供件数	0件(9件)	()内は前年度実績
-----	--------	----------	--------	------------

(3) 高齢者等移送サービス事業 (大野 共募 612千円)

通院や買物などの日常生活の利便向上や社会参加の促進を図るため、交通不便地域を含む大野地域全域を対象として、巡回車両を運行した。

【巡回車両の運行・利用実績】(毎週火曜日、第二・四木曜日 午前・午後各2便の運行)

午前1便	午前2便	午後1便	午後2便	()内は前年度実績
39人(32人)	54人(38人)	44人(45人)	102人(74人)	

(4) 高齢者自立支援事業 (宮島 自主・共募 207千円)

概ね70歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と協働し、地域見守り活動も兼ねて事業を実施した。

ア 高齢者給食サービス事業

宮島町食生活改善推進協議会と協働し年6回、3つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/15・6/17・7/15 10/21・1/23・2/17	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	概ね70歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ113人

イ ひとり暮らし高齢者懇談会

社協職員、大野支所地域づくりグループなどによる時節柄の啓蒙活動を盛り込みながら実施した。

開催日	場所	内 容	参加者
5/20	宮島市民センター	協力：宮島町女性会 『社協事業について』 (講師：社協宮島事務所)	12人
12/16	宮島福祉センター	協力：宮島地区民生委員児童委員協議会 『振り込め詐欺について』 (講師：くらし安全指導員)	15人

ウ あんしんほっとコール事業

ひとり暮らしに不安を抱える5人(平成27年3月31日現在3人)の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

エ 歳末みまもり事業 (宮島)

5 車イス貸出事業 (自主・共募 16千円)

高齢者・障がい者および緊急的に車イスが必要な人に、車イスを貸出すことにより日常生活の利便向上に努めた。また、市内小中学校での福祉体験活動の用具として貸出した。

【貸出し台数・件数】 () 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
242 台(245 台)	127 台(138 台)	30 台(18 台)	14 件(14 台)	71 台(66 台)	10 台(9 台)
307 件(286 件)	192 件(173 件)	30 件(18 件)	7 件(14 件)	68 件(68 件)	7 件(13 件)

6 障がい児・者関連事業

(1) リフトカー貸出事業 (市委託・自主 1,435千円)

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に6台のリフトカーを配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸出しを実施した。通院やスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議への参加などに利用してもらうことができた。

【貸出し件数】 () 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野
6 台	2 台	1 台	1 台	2 台
552 件(717 件)	331 件(325 件)	67 件(60 件)	93 件(242 件)	61 件(90 件)

(2) 障がい児者指定居宅介護等事業 (廿日市・佐伯・吉和 自主 21,127千円)

障がい児者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせる障がい児者福祉推進に努めた。

ア 訪問介護員の派遣

在宅障がい児者世帯に対する訪問介護員の派遣などを行なった。

(ア) サービス利用時間数 () 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動(視覚)	移動(知的)	移動(全身性)
1121.0 時間	443.5 時間	277.0 時間	7198.5 時間	1740.5 時間
(2049.5 時間)		(295.5 時間)	(7018.5 時間)	(2007.0 時間)

(イ) 契約者数 () 内は前年度実績

法区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	11 人(11 人)	83 人(82 人)	19 人(19 人)

(ウ) ヘルパー数 () 内は前年度実績

サービス提供責任者	1 人 (1 人)
登録ホームヘルパー	66 人 (73 人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	75 人 (80 人)
知的障がい者ガイドヘルパー	47 人 (51 人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	93 人 (103 人)

イ 研修の実施

開催日	内 容	参加者
10/7	障がいのある人への対応「思春期をむかえるにあたって」	25 人
3/8	勉強会 交流、事例検討など	20 人

ウ 関係機関との連携

行政や他事業所と連携をとりながら請求事務を行うほか、利用者のニーズを把握すると共に、市社協の他活動や事業を活かした対応に努めた。

(3) 情報支援事業 (市委託 1,519 千円)

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

ア 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報保障などのために、講演会、会議等へ手話奉仕員の派遣および要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

【手話派遣実績】

() 内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	216 件 (188 件)	325 時間 (294 時間)	27 人 (30 人)	23 人 (23 人)	29 人 (31 人)
団体派遣	22 件 (24 件)	50 時間 (44 時間)	—	54 人 (42 人)	—

【要約筆記派遣実績】

() 内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	47 件 (33 件)	111 時間 (83 時間)	3 人 (4 人)	6 人 (9 人)	17 人 (19 人)
団体派遣	11 件 (12 件)	25 時間 (19 時間)	—	44 人 (46 人)	—

イ 奉仕員の養成

視覚障がい者に情報提供し、社会参加を支援する音訳奉仕員を養成するため、講座を開催した。

講座回数 全 10 回 計 20 時間 受講者数 10 人

開催日	内 容	参加者
9/4~12/25	障害の理解、音訳の基礎、音訳技術	延べ 88 人

活動中の手話奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、手話奉仕員ステップアップ講座を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
1/15	コミュニティ手話通訳における通訳技法	10 人

活動中の音訳奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、音訳奉仕員勉強会を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
2/17	各広報誌の読み方	17 人

ウ 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらびあ物語」(毎月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(6・8・11・2 月の原則 10 日発行)、「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)、点訳本として「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらびあ物語」(毎月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(6・8・11・2 月の原則 10 日発行)「あいとぴあ」(偶数月 15 日発行)などを提供した。

(4) 視覚障がい者生活訓練事業 (市委託 29 千円)

中途失明の視覚障がい者が日常生活で介助者を頼ることなく外出ができ、社会活動ができるようになるため、歩行訓練(愛命園)を行なった。

訓練人数 1 人 訓練回数 1 回 2 時間

(5) 知的障がい者生活訓練教室開催事業 (吉和 市委託 214千円)

ア 日常生活上必要な訓練・指導、社会参加の促進や生きがい作り

開催日	内 容	場 所	参加者
4/3	遊びの教室 (子ども対象)	あいプラザ	5 人
4/12	社会参加 ボランティア吉和とすこやかプラザの畑作り アルミ缶整理	吉和福祉センター	15 人
5/27	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション	吉和保健センター	24 人
6/7	外出訓練 ・グラウンド・ゴルフ体験	潮原第一集会所	11 人
7/22	社会参加 ・吉和学園の生徒とレクリエーション	すこやかプラザ	10 人
8/23	交流 ・ボランティア吉和交流会に参加	吉和福祉センター	20 人
9/7	社会参加 ・障がい者スポーツ大会に参加	廿日市市スポーツセンター	20 人
10/21	生活訓練 ・すこやかプラザまつりの準備	吉和福祉センター	10 人
11/1	外出訓練、社会参加 ・すこやかプラザまつりでのコーナー出店	吉和福祉センター	7 人
12/16	創作活動 ・作品づくり (クリスマスツリーの飾り付け)	吉和福祉センター	13 人
1/27	生活訓練 ・交流、レクリエーションほか	石原集会所	30 人
2/24	生活訓練 ・交流、レクリエーションほか	潮原集会所	29 人
3/1	反省会・生活訓練 ・一年間の振り返り	吉和福祉センター	10 人

(6) 障がい者スポーツ教室開催事業 (吉和 市委託 12千円)

スポーツに接する機会の少ない障がい者とその家族を対象に、自立と社会参加の促進を図るため、スポーツ教室を開催した。福祉教育の一環として、吉和学園も参加した。

開催日	内 容	場 所	参加者
8/26	障がい者スポーツ指導員による「障がい者スポーツ体験」(フライングディスク、ビーンボーリング、玉入れほか)	吉和福祉センター	33 人(障がい者9人、ボランティア24人)

(7) 遊びの教室事業 (廿日市・佐伯・吉和 自主・共募 350千円)

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場・学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、春休みに1回・夏休みに10回・冬休みに2回実施した。多くの民生委員や学生ボランティアに関わってもらった。継続して参加してくださるボランティアが学生も含めて増えてきた。

開催日	内 容	場 所	参加者 (子ども)	Vo・スタッフ (職員含む)
4/3	午前:お弁当を作ってお花見に行こう 午後:スポーツレクで楽しもう	あいプラザ・ 新宮中央公園	10人	16人
7/25	午前:昼食づくり 午後:電車でアルパークへ買い物	あいプラザ アルパーク	8人	11人
7/29	午前:昼食づくり 午後:電車でアルパークへ買い物	あいプラザ アルパーク	7人	11人
7/31	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	9人	15人
8/1	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	9人	12人
8/5	安佐動物公園へ行こう	安佐動物公園	9人	14人
8/7	工作とレクリエーション	あいプラザ	6人	12人
8/8	レクリエーションともみじ饅頭 焼き体験	あいプラザ 宮島	9人	10人
8/19	レクリエーションともみじ饅頭 焼き体験	あいプラザ 宮島	10人	12人
8/21	うどん作りとはつぴーまつり	あいプラザ	11人	16人
8/22	うどん作りとはつぴーまつり	あいプラザ	8人	16人
12/20	年賀状づくり	あいプラザ	6人	11人
12/24	午前: 昼食づくり 午後:クリスマス会	あいぷらざ	10人	14人

保護者アンケートからも、遊びの教室に大きな期待を持っていただいていることを感じた。また、ボランティアの感想にも続けて参加したいという意見が多くみられた。

保護者アンケートから

- ・夏休みが終わったばかりなのに、「来年の夏休みにはこれに参加してみたい!!」と意欲があるようです。
- ・地域の方にもわが子を知ってもらい、いい機会になっています。大人になっても関わってくださった方と顔をあわせて、今の様子などを知っていただくことがレクリエーションをかねてでもできたら、いいなと思っています。
- ・いつもよく考えてくださっていると思います。子どもも「夏休みは遊びの教室!!」と楽しみにしています。

ボランティア感想

- ・遊びの教室に参加して本当に良かったなと思います。ボランティアは今日が2回目だったけど、とても楽しかったです。また、担当の〇ちゃんも楽しんでくれたので、私もうれしかったです。また、参加したいです。
- ・参加した子どもたちみんなが、とても楽しそうにやっていたので私もすごく楽しかったです。このボランティアもおかげで、とても充実した夏休みを送ることができました。あと2回、ボランティアがあるので楽しみです。

(8) 障がい児・者福祉支援 (佐伯 名称変更 自主 419千円)

ア 障がい児地域支援

さいき障がい児と親の会「みかん」との共催で、「障がいのある子どもの『就労』考える」会などを開催し、各種活動支援を行なった。

イ わんぱく旅行実行委員会への協力 (佐伯 共募 482千円)

在宅障がい児を対象にした一泊旅行を家族、ボランティア、関係者と企画実施した。また、在宅障がい者を対象に日帰りバス旅行を社協一押し事業として企画実施した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
5/16	第1回実行委員会 予算・行き先等の方針決定	廿日市社会福祉協議 会佐伯事務所	家族：6人 ボランティア：6人
7/27	事前交流会（1） ①ボランティア・参加者の顔合 わせと交流 ②元山先生(賀茂精神医療セン ター)を迎えて家族学習会	津田市民センター	当事者：10人 家族：15人 ボランティア：8人
8/5	事前交流会（2） 川遊び（戸屋原集会所） (大雨警報発令のため場所変更) ※ 安佐動物公園	安佐動物公園	当事者：4人 ボランティア：7人
8/23 ～ 8/24	「わんぱく旅行（宿泊）」 くだまつ健康パーク しものせき水族館「海響館」	山口県周南市・山口 市・下関市	本人：7人 家族：10人 ボランティア：14人
8/30	「わんぱく旅行（日帰り）」 出雲大社・島根ワイナリー	島根県出雲市	本人：8人 家族：10人 ボランティア：25人

(9) 障がい者地域社会交流事業 (吉和 共募・市補助 124千円)

ボランティアとの交流、外出意欲の増進を図るため「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場所	対象者・家族	ボランティア・職員
11/7	今治市大三島 みかん狩りほか	16人	7人

(10) 障がい児者地域生活支援事業 (大野 共募 249千円)

ア 鍋奉行活動等支援

大野障害者団体連絡協議会及び当事者組織「ハーモニー」「メロディー」「ハーモニー
OB」との連携を図り、本人たちが豊かに生きていける地域づくりをめざす取組みを実
施した。

開催日	実施項目	内 容
5/17・7/12 9/20・11/22 2/28	職場体験実習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職 場体験を行なった。体験者一人に一人「ジョブコーチ ボランティア」が付き添い、見守りおよび声かけを行 なった。
5/15・10/23 3/26	喫茶「ぽっぽ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぽっぽ」で昼食の販売
6/10・11/12 2/24	鍋奉行	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食づくりの連絡調 整を行なった。
7/26	ボランティア	2区ふれあいサロン（さわやか会）でのカレー作り

	活動	
10/7	ボランティア活動	介護の日のPR活動にフジグランナタリーで啓発品の配布
12/12	お化粧品教室	阿品清鈴園の入所者へのお化粧品ボランティア（ヤクルト化粧品の方と一緒に）
4/16・7/9 10/8・1/21	おしゃべり会	障がいのある子どもを育てる家族が自由に語り合う場を提供

【課題】

「ハーモニー」及び「メロディー」については、団体の発足当初と比較すると、障がい児に対するサービスが充実してきたことなどから、活動者の減少が進んでおり、活動支援の在り方の見直し時期になっている。

イ 小さな夏まつり

障がい者との交流やふれあいの場として、大野障害者団体連絡協議会、地元中学校等との協働により、8月19日に「小さな夏まつり」を企画・実施し、約500人（内ボランティア79人）が参加。

ウ 在宅障がい者自立生活訓練事業

障がい者団体が実施する在宅障がい者自立生活訓練事業に対する助成事業であるが、各種福祉サービスの充実等により利用実績が無いため、助成を実施していない。

(11) 精神保健福祉支援事業 (佐伯 共募 32千円)

ア 当事者支援

精神保健福祉ボランティアグループ「ちゅうりっぷ」の活動支援を行なった。また、おしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

イ ボランティア養成

精神保健福祉講座の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/6	テーマ：心によりそう支援 ～家族とともに支え合う～ 講 師：精神保健福祉士 岩田 卓郎さん	津田市民センター	17人

(12) 精神障がい者地域生活支援事業 (大野 自主・共募 65千円)

こころの病気を抱えている人たちが住み慣れた大野地域で豊かに暮らしていけるように次の支援事業を行なった。

ア 本人やその家族の自主活動や自主活動グループの組織化を支援

毎月実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健行政と連携をとりながら協力した。

イ 精神保健福祉ボランティアの育成、発掘

精神障がい者等への理解を深めるために、市民を対象としたボランティアきっかけ講座として、対人援助技術や社会資源を学ぶための講座を開催した。

回	開催日	内 容	参加者
1	2/16	テーマ：精神障がいのある人の理解と関わり方 講 師：日本赤十字広島看護大学 准教授 笹本 美佐さん	23人
2	3/17	テーマ：大野地域での精神保健福祉活動について 「あいあい作業所ってどんなところ？」 講 師：あいあい作業所 所長 武地 成章さん メンバー3名	36人

7 不登校・ひきこもり支援事業 (廿日市 自主・共募 650千円)

不登校・ひきこもりの子どもや若者、家族が相談できる場や居場所の開催を行なった。居場所は、不登校・ひきこもり支援ボランティア“かたつむり”に協力してもらった。今年度は「学習会」「講演会」を集中して開催することで、不登校・ひきこもりの理解を深めるための啓発を行なった。

(1) 親の会の開催

10回開催 延べ参加者 30人

(2) 居場所開催

毎週火曜日開催 延べ参加者数 99人 延べボランティア参加者 178人

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的とした居場所では、自立への1歩として月1回はクッキングの日とし、簡単にできる調理を行い、好評だった。また、弥山登山や初詣を兼ねもみじ饅頭焼き体験に挑戦するなどのイベント開催も行なった。

(3) 講演会・学習会の開催

()内は相談会参加者

回	開催日	内 容	参加者
1	5/31	【コンサート&講演会】 JERRY BEANS&yokko コン서트&講演会	37人
2	7/27	【講演会&相談会】 「ひきこもり その心理と援助」 ～人はなぜひきこもるのか～ 講師 宇部フロンティア大学/大学院教授 西村 秀明さん	57人 (12人)
3	10/11	【トークライブ】 「本人と親が楽になるための～安心ひきこもりライフ～」 講師 ひきこもり名人 勝山 実さん 聞き手 伊藤 書佳さん	69人
4	11/29	【講演会&相談会】 「不登校・ひきこもりの理解と対応」 ～不登校よもやま話～ 講師 宇部フロンティア大学/大学院教授 西村 秀明さん	51人 (13人)

(4) 親の会通信の発行

8回

(5) 不登校・ひきこもり相談

28件

8 福祉コミュニティ支援事業 (宮島 自主・共募 71千円)

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/27	852世帯	1,704枚

- (2) 葬儀用具貸出事業 (宮島 自主 5千円)
生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。
貸出件数 0件

9 各種貸付事業

- (1) 高額療養費貸付事業
制度改正（平成 24 年 4 月）により、申請手続の件数は、平成 23 年度までの申請や多数該当などがあつた場合のみが貸付対象となつたため、本年度において貸付実績はなかつた。

- (2) 緊急生活安定資金貸付事業 (自主 339千円)
緊急に生計の維持が困難になつた世帯に対し、生活費を貸し付けることにより、経済的自立および生活の安定を目指した支援を行なつた。

【貸付実績】

件数	金額
7 件	338,500 円

- (3) 生活福祉資金貸付事業 (県社協委託 2,820千円)
低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付と民生委員による必要な援助指導を行うことにより生活の自立と安定、経済的自立および生活意欲の助長、促進を支援した。
また、失業者等に対して、日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのための継続的な相談支援と貸付を行なうことにより自立が見込まれる世帯を支援した。
・償還につながるように、借受人・連帯借受人・連帯保証人・民生委員と連携し、状況の把握に努めた。
・県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する督促を行なつた。

	相談件数	申請件数
生活福祉資金	158 件	13 件
臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件

- (4) 住宅支援給付事業 (市委託 2,557千円)
離職者であつて就労能力および就労意欲のある方のうち、住宅喪失または喪失の恐れのある方に対して、住宅手当を支給することにより、住宅および就労機会の確保に向けた支援をした。

また、平成 26 年 5 月 28 日開催の廿日市・大竹地域生活福祉・就労支援協議会に参加し、関係機関との連携を図つた。

相談件数	申請件数	支給決定件数
6 件	2 件	2 件

第2 地域の力を生かす取組み

小さな地域だからできるさりげない「支え合い」を共有し広げることで、自分でもできる関わりに気付いたり、地域から孤立している状況を発見したり、判断能力が十分でないなどのために、自ら問題解決に向かうことが難しい状態にある人々を、地域で支えていく仕組みづくりに取組んだ。

1 小地域ネットワーク事業 (共募・市補助 281 千円)

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、様々な地域の取り組みのバックアップをした。

(1) 地区社協事務局活動費の助成

地区福祉部会（地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等）に対し事務局活動費を助成し、活動の活性化を図った。

(2) 地域福祉推進団体の視察研修調整・同行

地域福祉推進団体が実施する視察研修先との調整および視察研修へ同行した。

(3) 地域福祉推進団体の総会への参加および勉強会にて市社協事業の説明

地域福祉推進団体の総会などに出席した他、勉強会などにて市社協事業などの取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知の他、地域住民の福祉に関する意識向上を図った。

2 多機能サロン実施事業 (吉和 自主 312 千円・新規・イチ押し事業)

高齢者サロン、福祉作業所、障がいデイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロンを運営することで、地域や自宅で孤独感を感じず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりをした。

開催回数	開催場所	内 容	参加者
37 回	吉和福祉センター 吉和保健センター 他	ラジオ体操/カラオケ/血圧測定/食事作り/草取り/パステルアート/DVD鑑賞/ドライブ/芋ほり/芋の袋詰め/文化祭作品見学/書き初め/スポーツ体験/雑談 他	延べ 344 人

3 地域のつどい・サロン支援事業 (自主・共募・市補助 2,082 千円)

地域の集いが地域住民の力で自主運営され、小地域の見守り強化や閉じこもり防止など地域に根付いた活動になるよう要望に応じた支援および新たなつどい、サロンづくりの支援を行なった。

(1) 廿日市地域

高齢者、障がい者、子育て世代、その他の方対象のサロンの活動推進・拡大を目的に事業を展開し、地域の当事者による取り組みを支援した。

ア 集い（サロン）関係者を対象とした研修会の実施

(ア) 一般・サロン関係者を対象とした支援

開催日	取組み	内 容
6/30	食中毒予防講座	市保健センターとの共催による食中毒の基本情報、食

		品の衛生管理の知識習得を目的にした会食を伴うサロンへの情報提供（参加者：34人）
--	--	------------------------------------------

(イ) 地域のサロンの自主運営を目指し、継続的に開催されるための支援

取り組み	内 容
レクリエーショングッズ貸出	活動に必要なレクリエーショングッズの貸出し実施（74件）
各種助成金案内	活動が地域で安定して運営されることを目的とした「ささえあい活動助成事業」により、新規3サロン、継続8サロンへ助成した。
保険案内と加入事務	サロン開催時におけるケガ等の補償のためのボランティア行事用保険、活動保険の案内と加入事務
情報提供	サロンを探している方に対する紹介、サロンへのボランティア調整等

イ 情報共有・不安解消のため、地域ごとのサロン交流会の実施

(ア) サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的にサロン世話人を対象とした、交流会を実施した。世話人同士の横つながりができただけでなく、新規立ち上げサロンや新任世話人への情報提供をスムーズに行うことができた。

開催日	内 容	参加者
4/30	世話人同士の交流、レクグッズ体験	8人
6/30	サロンでできる!!食事を作ってみよう♪	24人
8/26	サロン活動中のケガの補償について考えてみよう	18人
10/31	サロン活動中の応急手当（AEDの使い方）について考えてみよう！	14人
12/19	ボランティア紹介、社協事業紹介、などの交流会	19人
2/24	世話人同士の交流、ボランティア紹介、カレンダーづくり	15人

(アンケートから)

○おしゃべりサロンの内容について…

- ・他のサロンの活動を知ることができて良かったと思う。
- ・今後サロンの時に使わせていただきたいことなど多くためになった。

○サロンを運営される中でうれしかったこと

- ・参加者からの「ありがとう、楽しかったよ、またね」という言葉。
- ・皆さんの笑顔。

○サロンを運営される中で困った事

- ・スタッフの高齢化。
- ・参加者の固定化。

○サロン世話人にとってサロンとはどんな場所ですか？

- ・地域の方と知り合いになれて、他の場所で出会った時など話がしやすい場所。
- ・絆を深める、お互いを理解する場所。
- ・健康の確認をして、ご近所の皆さまとゆっくりおしゃべりのできるところ。

ウ 小地域のお茶の間づくり事業の推進

(ア) 「地域のお茶の間づくり事業」の指定（県社協委託事業 3年目）

各地区で開催するサロン活動のさらなる活性化により地域福祉を推進するため、サロン常設化へ向けた機能強化を図るため、サロン・ド・四季が丘に助成を行なった。

- ・サロン運営委員会に出席。
- ・基本的な相談援助技術（ニーズ把握対応、関係機関・専門機関等への取次）を習得するあんしんサポートリーダー研修へ3名のリーダーとともに出席。
- ・学生ボランティア、一般ボランティアの受け入れを県社協とともに実施したり、二次介護予防の場として地域包括支援センターと協力を行なっている。
- ・三原市本郷地区社会福祉協議会の視察研修の受け入れ調整を行なった。

(2) 佐伯地域

ア レクリエーションのための道具の貸出（延べ127件）

イ 「ひまわり日和」でのサロンの活動状況などの広報活動（年6回発行）

ウ サロン連絡会議（第1回） 5月30日開催 11人

サロン連絡会議（第2回） 2月20日開催 14人

講座：ミニ講座「詐欺から高齢者を守ろう」

講師：廿日市警察署 津田駐在所 新尺 誠氏

参加者：14人

エ 音楽サロン「オルゴール」浅原・友和・玖島・津田各地域で毎月1回開催

日時	実施回数	実施場所	参加者
毎月第1月曜日	12回	浅原市民センター（共催行事）	延べ165人
毎月第2金曜日	6回	友和市民センター（共催行事）	延べ156人
毎月第4金曜日	11回	玖島市民センター（共催行事）	延べ146人
毎月第3水曜日	12回	津田市民センター（共催行事）	延べ404人

※津田市民センターでは津田保育園児の参加による世代交流。

※友和地区は、10月から新規開催。

オ 「赤ちゃんすくすく広場～0歳児の子育てサロン～」について、子育て支援ネットワークと連携を取りながら、企画・運営を支援した。

(3) 吉和地域

開催日	取り組み	内容	参加者
通年	各種サロンの支援	カラオケサロン・囲碁の集い・よりあいサロン等各サロンへの活動支援	1回あたり 約2～10人
1月～3月 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	冬期の閉じこもり防止を目的にした カローリング等の実施	1回あたり 約15～20人
随時	広報活動	「すこやかプラザまつり」での活動 紹介等のパネル展示 社協だより「ぬくもり」紙上でのサ ロン参加者の募集、活動報告	
随時	レクリエーション 用具貸出	各サロンへのカローリングやペタン ク、スロービー等用具の貸し出し	

(4) 大野地域

地区福祉部会・老人クラブを主体とした高齢者サロンの推進や、当事者による「セルフヘルプ・サロン」（当事者による相互支援サークル）の取組みを支援した。

さらに広島県社協指定事業の「社協型活動総合推進事業（小地域のお茶の間づくり）」に

ついて、各区の取組みを支援した。

ア ふれあいサロン（各区）に助成金交付 11か所

イ セルフヘルプサロンへの活動支援

- ・大野ソーシャルクラブ「プラム」（精神保健福祉サロン）への協力（再掲）
- ・障がい児を育てる親の会「メロディ」と一緒に「おしゃべり会」を開催（再掲）

ウ ふれあいサロン活動概況調査 年1回

エ レクリエーション用具の貸出 38件

オ 小地域のお茶の間づくり事業の推進（県社協委託事業 2年目）

広島県社協が実施するあんしんサポートリーダー研修への参加を促した他、各区でのお茶の間サロンの運営（助成を含む）及び立ち上げ支援を行なった。

取組み		内 容
立ち上げ支援	6区	・先進地訪問研修（福山市鞆町）の調整及び随行
	7区	臨時福祉部会において、お茶の間サロン立ち上げにあたっての事業説明
	8区	・先進地訪問研修（府中市上辻）の調整及び随行
運営支援	1区	サロン及び世話人会への参加及び助言
	2区	サロン及びスタッフ打合せへの参加及び助言
	7区	・サロン及び福祉部会への参加及び助言 ・先進地訪問研修（呉市川尻地区）の調整及び随行
	8区	サロンへの参加及び助言
情報交換会	大野地域の4つのお茶の間サロンのあんしんサポートリーダーによる情報交換	

(5) 宮島地域

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月2回 第1・3水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月11・25日	杉之浦市民センター

(6) 全域

開催日	取組み	会場	内 容	参加者
5/30	ワイワイ交流会	津田市民センター	・サロンで役立つレクリエーション	19人

4 ファミリー・サポート・センター事業（市委託・自主 4258千円）

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行なった。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間“ほっと”なつながりや気軽に“SOS”が出せる関係作りができることを目指した。活動が終了しても「お互いが気にかけてあう付き合いができています」といううれしい報告を、会員からいただいている。“ほっと”なエピソードはファミサポだよりに掲載し、ファミサポだよりをみて新規の提供会員の登録があったり、依頼会員から問い合わせがあったり市民に事業のPRをすることができた。

（ ）内は前年度実績

登録会員数	1,007人【依頼会員 607人、提供会員 356人、両方会員 44人】 (1,088人【依頼会員 673人、提供会員 370人、両方会員 45人】)
利用（活動）実績	2,448件【育児 378件、介護 2,070件】 (2,316件【育児 315件、介護 2,001件】)

広報活動	「あいとびあ（市社協広報紙）」記事掲載（3回） 提供会員募集記事、研修会実施記事を掲載 「ファミサポだより」発行（2回） 民児協の定例会・社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交流会の開催	研修交流会開催（8回・参加者 145人） 研修会内容 6/17 子育てサポーター養成講座 6/18 子育てサポーター養成講座 6/28 研修交流会（高齢者編）（大野） 6/30 食中毒予防講座 9/11 幼児安全法 10/7 子育てサポーター養成講座 10/8 子育てサポーター養成講座 12/3 研修交流会（高齢者編）

5 地域福祉活動事業（佐伯 自主761千円）

(1) 福祉委員活動推進事業

地域住民と協力して福祉活動を実践し、助け合いのネットワークをすすめるため、福祉委員活動を推進した。

福祉委員	110人
福祉委員会議	地域の現状や福祉課題を把握するため開催
内 容	4月21日（玖島・友和地区） 4月22日（津田四和・浅原地区・全地区合同） 協議題：市社協事業計画、福祉委員活動、日赤事業及び社資募集、社協会費募集について（参加者延べ47人）
	9月24日（友和・浅原地区） 9月26日（玖島・津田四和地区・全地区合同） 協議題：市社協事業報告、日赤社資・社協会費募集状況、共同募金・歳末たすけあい募金について（参加者延べ33人）
その他の活動	地域のサロン、敬老会などの取り組みや「わんぱく旅行（宿泊・日帰り）」「心と心のハーモニーフェスタ」への協力と参加、民生委員と連携したニーズ把握

(2) 福祉施設等連絡会の開催

佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取り組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携も図った。

開催日	内 容	参加団体数
5/28	H26年度の取り組み、ヤングボランティア、施設の現況報告等について協議	7
6/26	親睦会を兼ねて、「心と心のハーモニーフェスタ」、施設のまつり等について協議	8
11/13	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省会	5

※佐伯地域ケア会議（毎月第4水曜日）参加

(3) 福祉施設職員相互研修の開催

市内の福祉施設に勤務する職員延べ17人が、他施設で1日～2日間を過ごし、情報交換や交流ならびに研鑽を深めた。(延べ参加日数 18日)

期間	参加施設
7/18～ 10/17	(廿日市地域) くさのみ作業所、ピクトハウス、さくら作業所、コーヒーショップあんず、デイサービスセンター清鈴園、桜虹会ハナミズキ (佐伯地域) 広島ひかり園、友和の里、夢工房、にじのえき (大野地域) 望海の里、べにまんさくの里 (宮島地域) みやしろ

(4) 広報啓発活動(再掲)

奇数月月上旬、佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を発行した。

6 ふれあいのまちづくり推進事業 (大野 自主・共募・県社協助成5,118千円)

お互いが「気かけあえる」「支えあえる」地域づくりのための推進母体となる地区の福祉部会、関係団体が同じテーブルで福祉を推進していくための協議や情報交換を行う場である大野地域福祉推進委員会の運営等を行なった。

大野地域で行われている地域福祉活動を広報するための広報紙(ふれまちだより)の発行、イベント(おおの健康福祉フェスタ)の企画

地域の中で、生活課題を抱えている人たちに対して、関係機関との連携の中で、個別課題解決に向けての協議の場を設ける。

また、地域での助け合い活動の核となる、小地域ネットワークづくりを行う。

(1) 大野地域福祉推進委員会運営

ア 地域福祉推進委員会の開催並びに地域福祉推進委員会訪問研修の実施

開催日	会場	内 容	参加者
6/27	大野福祉 保健センター	1 役員改選について 2 平成25年度地域福祉事業報告 3 平成26年度地域福祉事業計画 ※地域のお茶の間づくりについての経過報告 4 グループワーク	22人
1/22	大野福祉 保健センター	1 経過報告 大野地域での「お茶の間サロンの取組みについて」 2 グループワーク 「地域で聞いた気になること」 自分たちの地域ではどう考えるか? 3 報告 広島県内のお茶の間サロン活動について 広島県社協地域福祉課 主任 河内 広行さん 4 協議 第34回地域福祉推進研究協議会について	19人

※地域福祉推進委員会訪問研修については、各区福祉部会が個別に視察研修を実施したため未実施。

イ 地域福祉推進研究協議会の開催（年1回）

開催日	会場	内 容	参加者
3/7	大野福祉 保健センター	テーマ：地域のサロン活動 今後の役割 講 師：広島県社会福祉協議会 業務部長 上田 正之さん	120人

(2) 小地域ネットワークづくり

ア 各地区との連携

地域福祉活動推進事業助成金や各地区福祉活動事業費（一般会費総額の70%）を助成した。また、各地区及び地区民生委員児童委員協議会が行う訪問視察研修などの調整・同行などを通じて、各地区と連携を図った。

イ お互いが気にかかけあえるための仕組みづくり

(ア) 環境美化活動（花いっぱい事業）

市民の交流と生きがいを目的に、市内の障がい者福祉施設で育てた花の苗を地区環境美化推進のために栽培・管理しながら福祉コミュニティの形成をめざした。

花苗配布日	品 種	数 量
5/29	サルビア、マリーゴールド、日々草、ジニア	2,550個
10/23	パンジー、葉牡丹、ノースポール	2,550個

(イ) 「地区給食サービス」

地区福祉部会を主体とした互助の取り組みとして、一人暮らし高齢者や障がい者世帯へ安否確認も兼ねて給食弁当を宅配する活動に対して、その経費の一部を助成した。

実施地区	回数	人数
2区	10回	241人
5区	8回	152人

ウ 福祉部会への支援

地域で行われている「ふれあいいいききサロン」「見守り活動」の実施主体となる福祉部会に対し助成を行なった。

(3) 広報・イベント等

ア 広報啓発活動

地域の福祉活動を広く広報する「ふれまちだより」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布（10,900部）した。

イ おおの健康福祉フェスタの企画・実施

大野地域での健康と福祉に関する集いとして、おおの健康福祉フェスタを企画・実施した。

7 いきいき活動推進事業（吉和 自主・共募 214千円）

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域への取り組みへと発展させるために市と連携を図りながら様々な事業を展開した。

(1) あつまろう家（ひとり暮らし等高齢者懇談会）実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員・ヘルスメイトグループ・コミュニティよしわ・ボランティア吉和・女性会と協働し実施を支援した。

開催日	場 所	内 容	参加者
6/23	吉和福祉 センター	あつまろう家実行委員会 ・平成26年度の活動計画 ・平成25年度の反省事項	5人

8/28	開催： 吉和福祉 センター 調理： 保健 センター	あつまろう家開催 ・廿日市市警察署吉和駐在所から「悪徳商法」 等に関するお話 ・中学生によるミニコンサート ・人権擁護委員による寸劇 ・いきいき健康教室（ヤクルト販売㈱） ・食事：ボランティア吉和、女性会、ヘルス メイトによる	62人 (対象者32人、 協力者30人)
12/16	吉和福祉 センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	8人
3/12	開催： 吉和福祉 センター 調理： 保健 センター	あつまろう家開催 ・廿日市市警察署吉和駐在所から「悪徳商法」 等に関するお話 ・ミニコンサート ・吉和診療所 吉川先生から「病気の予防」 等に関するお話 ・食事：ボランティア吉和、女性会、ヘルス メイトによる「ちらし寿司」ほか	64人 (対象者41人、 協力者23)

(2) 生涯暮らし続けられる吉和地域を考える福祉座談会等の支援

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記の通り会議等を行なった。

	実施日	場所・内容	参加者
考える会	6/6	吉和保健センター ・生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会の 構成について ・今後の進行計画について	12人
つくる会	6/24	吉和福祉センター ・生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会発 足までの経緯・今までの振り返り ・つくる会の取り組みについて ・役員選出	21人
	8/26	吉和福祉センター ・第5期介護保険事業計画の実施状況について ・システムづくり、ハコモノづくりについて ・第6期介護保険事業計画の策定概要につて	20人
	9/16	吉和福祉センター ・生涯暮らし続けられる吉和地域について	20人
座談会	11/27	吉和福祉センター ・つくる会構成員の紹介 ・これまでの協議内容の説明 ・市への要望事項について	33人

(3) 子育てサロンの開催

毎月2回、保育園・支所市民福祉グループ・市民センターとの共催により開催した。

(4) 福祉車両の貸出

地域の福祉団体等に「たすけあい号」の貸出を行うことで、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用させていただくために適切な車両管理を行なった。貸出実績：75件

(5) 社協だより「ぬくもり」の発行

毎月1日、全11号を発行し全戸配布した。これによりボランティア募集、地域活動の予定および活動報告等の情報を地域に発信した。

(6) 葬儀用具の貸出

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具を一式貸し出すことを行なった。貸出実績 8件

8 ボランティア関連事業

(1) ボランティア活動推進事業（自主・共募・県社協助成・市補助1,018千円）

ボランティア活動促進のため、各種ボランティア活動に対する支援を次のとおり行なった。

ア ボランティア活動保険の取り扱いおよび加入助成の実施

イ ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

(ア) 活動助成金の交付

ささえ愛ネットはつかいちおよび各支部に助成金を交付し、活動を促進した。

(イ) ボランティア交流会（佐伯・吉和支部担当）の開催（6月21日）

参加者 84人

ウ 大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり事業

(ア) つながりづくりとして応援会議の開催（全6回）

(イ) 活動づくりとして「学生のためのボランティア入門講座」の開催

7月5日 参加者 25人

12月20日 参加者 14人

(ウ) 情報づくりとして大学とボランティア登録カードの共有、情報提供方法の確立

エ プラチナ大学（広島県高齢者健康福祉大学校）への協力

この事業は、広島県社協からの受託事業であり、地域を支える一員として支える一員として活躍するプラチナ世代やそのリーダーを育成するとともに、育成した人材を地域と結びつける仕組みづくりを目的として実施した。

また、広島県が提唱する「広島県プラチナ世代支援協議会」とも協働して、高齢者の健康と生きがいづくりに関する事業への協力や情報提供などの支援を行なった。

(ア) 運営協議会の参加

(イ) 大学校の運営

・受講者数：19人

・修了者数：19人

・一般講座：12回、体験講座：2回

オ 精神保健福祉ボランティアの養成・支援

精神保健福祉ボランティアねこの手の定例会や食事会、精神障がい者の居場所づくりの場であるフリースペースへ参加した。また、ボランティア養成への意見を聞き取り、毎月一度開催していた精神障がい部会へ参加した。

カ ボランティアスクール2014の開催

ボランティア活動に関心のある小・中・高・大学生などを対象に福祉施設などで体験学習を実施した。

開催期間	内 容	参加者
8/4～8/26 計7日間	吉和地域内の福祉施設や高齢者のサロン（よしわせせらぎ園・吉和保育園・囲碁のつどい）と連携し、地域の高齢者、幼児との関わりをもつなど福祉教育の推進に努めた。	延べ 14人

キ 国際救援衣料収集

身近で取り組みやすいボランティア活動を推進することを目的に、衣料等の収集活動を通じ、ボランティア活動のきっかけとなるような取り組みを実施した。

- ・地域の方から収集した衣類を海外の風水害による被災者、人種・種族間闘争等による避難民の方へ日本救援衣料センターを通じた衣類送付を行なった。
- ・廿日市市国際交流協会との共催で1回実施した。（昨年度は2回実施）
- ・金剛寺小学校生徒、廿日市西高等学校生徒、大学生、地域のボランティアグループ、個人ボランティアの協力を得ることができた。

（ ）内は前年度実績

実施日	収集件数	協力人数	送料用寄付金額
10/25	ダンボール 372箱 (442箱)	43人 (66人)	179,994円 (232,468円)

ク 使用済み切手収集

海外の方の健康を守ることを目的に、使用済み切手を地域の方から収集し、切手仕分け作業を登録ボランティアへ紹介、活動へとつないだ。

8/20に公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会へ切手を送付した。

(2) ボランティア養成研修事業 (佐伯 自主・共募 259千円)

ア ボランティア調整および活動支援

ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整と活動支援を行なった。

イ れすとはうす「花かご」の管理運営

世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年1回、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】(前年)

開館日数	内 容	来館者
196日 (187日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動（おもちゃの会、手話でおしゃべり、朗読の会、あけぼの会、子育て談義） ・文化活動（パッチワーク、牛乳パック工作、編み物楽彩クラブ、リフォーム） ・ふれあいサロン（たまたまこ、ちゅうりっぷの会、こぶし会） ・行事（草抜き&茶話会、花植え、やさい市、フリーマーケット等） 	延べ2,316人 (2,230人)

ウ ボランティア連絡協議会「ひまわり会」運営連絡会の開催 年2回

エ ボランティア養成研修

ボランティアのきっかけ講座として、ボランティア活動ガイダンスを行い、ボランティアの参加について、幅広く呼び掛けた。

開催日	内 容	参加者
2/7	ボランティアきっかけ講座 「ボランティア活動ガイダンス」	17人

オ ヤングボランティアスクールの開催

年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験等を行なった。

開催日	内 容	参加者
7/26	「水まつり」での「みかん」出店の手伝い	10人
7/27	「わんぱく旅行事前交流会」障がい児の見守り	2人
7/31	あいプラザ「1日喫茶」へ外出・見守り	2人
8/5	「夏休み障がい児遊びの教室」障がい児の見守り	7人
10/12	「みかんデイキャンプ」障がい児の見守り	9人
10/26	「心と心のハーモニーフェスタ」スタッフとしての体験	15人
12/21	「みかんクリスマス会」障がい児の見守り	14人

(3) ボランティアセンター活動推進事業 (大野 自主・共募 213千円)

ア ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人およびグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙の発行など条件整備をすすめた。

イ ボランティア学園の開催

小学生全学年を対象として募集。多くの人との交流・体験を通し、福祉・ボランティアに対する意識を高めた。

また、ボランティア連絡協議会や地域内の福祉施設、中学・高校生徒会の参画により、世代間を越えた交流を促した。合わせて、障がい者団体や家族会、中学生などと協働で、「小さな夏まつり」のスタッフとして活動できた。

開催日	内 容	参加者
7/30	入園式 手話体験	16人
7/31	音訳・点訳・アイマスク体験	16人
8/4	施設訪問介護体験（Aグループ：洗心園）	11人
8/5	施設訪問介護体験（Bグループ：アダージョ）	4人
8/19	「小さな夏まつり」への参画	17人

ウ 児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する助成金の交付や活動支援

(ア) 空飛ぶ車いす活動の支援

宮島工業高等学校生徒会による、故障した車いすを修繕して開発途上国に提供するボランティア活動「空飛ぶ車いす活動」を支援した。

(イ) ビッグフィールド大野隊の活動支援

小・中・高校生で構成された市民活動団体「ビッグフィールド大野隊」の地域福祉活動に向けた。

(ウ) おおの健康福祉フェスタへの協力

- ・宮島工業高等学校建築科による「ふれあいステージ」設営と撤去
- ・大野中学校・大野東中学校生徒会による「ふれあいステージ」の司会進行
- ・ビッグフィールド大野隊による会場の清掃活動

(エ) 小さな夏まつりの実施

「小さな夏まつり」を中学校生徒会と障がい児者団体の協働企画によりお祭りを実施した。

エ 大野ボランティア連絡協議会との協働

大野ボランティア連絡協議会の設立20周年にあたり、記念講演会を協働で開催。

開催日	場所	内 容	参加者
1/30	大野福祉 保健センター	【オープニング】 邦楽アンサンブル「SIG」 【記念講演】 テーマ：ボランティア活動と私 講 師：高知県土佐町社会福祉協議会 事務局長 山首 尚子さん	85 人

(5) 災害救援ボランティア事業 (共募・市補助・日赤1,048千円)

ア 広島県土砂災害における支援活動

8月27日から9月30日まで広島市安佐北区災害ボランティアセンターに向けてボランティアバスを運行し、現地にボランティアを派遣して支援活動を行なった。

活動日数 23日 活動者数 延べ416人

イ 廿日市市被災者生活サポートボラネット推進会議の開催

ウ はつかいち災害救援ボランティアネットワークの活動支援

(6) 生活・介護支援サポーター養成事業 (市委託227千円)

地域の高齢者の個別の生活ニーズに応える仕組みを安定的・継続的に構築するため、市民の主体性に基づき運営される新たな住民参加サービス等の担い手として生活・介護支援サポーターを養成し、地域で高齢者の生活を支えるシステムを構築した。

開催日	内 容	参加者
12/13	「老後は突然やってくる」 老後の準備・覚悟 社会福祉法人 IGL 学園福祉会 山崎 裕恵さん	48 人
1/24	「非日常の日常化」 非常時に役立つ日頃の支えあい 那須 順子さん・石橋 貞文さん	40 人
3/7	「在宅死がすすんでいるまちの話」 北広島町雄鹿原診療所 東條 環樹さん	54 人

9 福祉教育推進事業 (自主・共募・市補助150千円)

市内の小中学校が取り組む福祉教育活動について様々な支援を行うことにより、児童生徒への福祉教育を推進するとともに、小中学校と地域の連携を図った。

(1) 各種福祉体験学習における連絡調整

市内の小中学校が取り組む福祉教育活動等についての相談対応及び職員やボランティアの派遣調整、体験学習等で必要となる機材の貸出を行なった。

(2) 福祉教育活動助成

市内の小中学校28校に対し、福祉教育活動に係る費用について助成金を交付した。

(3) 地域まるごと福祉教育連絡会議

県社協が実施した地域まるごと福祉教育推進事業（3年指定事業）の指定地域に対し、連絡会議を実施し、学校・地域と協働して事業を行なった。

指定地域	実施回数	実施場所	構成員
友和小学校区	2回	友和小学校	16人
津田小学校区	2回	佐伯社会福祉センター	14人

※友和小学校区では、学校支援本部のコーディネーター会議（月1回）に参画した。

(4) 総合的な学習への支援（吉和地域）

まなびの森 吉和学園（吉和小・中学校）が総合的な学習で取り組んでいる「福祉プロジェクト」について、児童および生徒が地域の福祉課題等を学び、自主的な活動を考えられるよう、吉和地域の福祉団体等と協働しこれを支援した。

内 容	協働団体
自分たちが守る吉和の医療	吉和診療所・よしわ
願いをもとにボランティア	せせらぎ園・吉和支
一歩踏み出す吉和のサービス	所・地域住民・ボラ
笑顔の広がるボランティア	ンティア吉和

(5) 社会福祉実習生の受入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生の受入れを行なった。

機関等	時間	人数
広島文教女子大学	180	1人

第3 関係諸機関を繋げる取組み

制度の供給側と当事者、そして社会資源を繋げながら、それぞれの立場で役割を担い、要援護者への支援に関わっていくための取組みを進めた。また、関係諸機関との繋がりを広げるため、市社協の取組みをさまざまな形で周知した。

1 福祉団体支援事業（自主・共募3,048千円）

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行なうことにより住民福祉活動及び自主運営を促進した。

(1) 福祉団体へ助成金の交付

【廿日市地域】 (単位：円)

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	150,000
社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	虹の会	10,000

【佐伯地域】 (単位：円)

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
ボランティアグループ「ひまわり会」	50,000	在宅障害児音楽療育「パレット」	20,000
在宅介護者の会「リフレッシュクラブ」	20,000	さいき障がい児と親の会「みかん」	20,000
わんぱく旅行実行委員会	482,000	心と心のハーモニーフェスタ実行委員会	492,000

【宮島地域】

宮島町食生活改善推進協議会	30,000	地域ふれあいフェスタ実行委員会	75,570
---------------	--------	-----------------	--------

(2) 各団体との協働事業

開催日	場所	内 容	参加者
8/7	津田市民センター	福祉サービス利用援助事業「かけはし」・成年後見制度（社協職員による説明） （精神障害者家族会「こぶし会」）	9人
12/11	浅原市民センター	福祉サービス利用援助事業「かけはし」 （社協職員による説明） （佐伯地区民生員児童委員協議会）	58人
2/7	津田市民センター	障がいのある子どもの「就労」を考える 講師：ハローワーク 佐々木 一幸さん （さいき障がい児と親の会「みかん」）	11人
3/4	津田市民センター	障害者の就労について 講師：ハローワーク 高橋 章男さん （精神障害者家族会「こぶし会」）	11人

(3) 福祉関係団体事務支援事業（吉和、宮島）

福祉関係団体の事務や事業の支援を通して自立運営を支援した。

ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会

イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・宮島町遺族会

2 広報啓発事業 (自主・共募3,039千円)

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取組みや市内の福祉活動の動向をお知らせし、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

(1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民にお知らせした。

(2) 市社協だより「あいとびあ」の発行

偶数月の1日に市社協だより「あいとびあ」を新聞折り込みなどで各戸に配布し、市社協の取組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民にお知らせした。

(3) ホームページの運営

市社協の取組みや行事案内、地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民にお知らせした。

(4) 各事務所独自の広報紙の発行 (各事務所)

3 福祉まつり事業

高齢者、障がい児者、福祉施設職員、子ども、ボランティア等、多くの市民が参加し、ふれあいつながりあい、誰もが住みよい地域づくりの場として次のとおり開催した。

(1) あいプラザまつり (廿日市 自主・共募・市補助 403千円)

「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/9	あいプラザおよび新宮中央公園	約 2,000 人	427 人

- ・ボランティア体験や作業所体験、また、健康推進課による健康診断、五師士会による企画コーナーなど地域包括ケアシステムを意識したスタンプラリーを通して、あいプラザの保健・医療・福祉の拠点性の向上と施設の利用促進を図った。
- ・あいプラザで活動中のボランティアサークルに声掛けをし、初めて参加してもらった市民へ活動紹介でき、またサークルのモチベーションアップにもつながった。
- ・廿日市小学校の児童の協力を得て、また風船の配布等を通して共同募金活動を行なった。

(2) 心と心のハーモニーフェスタ (福祉団体支援事業) (佐伯 共募492千円)

実行委員会形式で実施し、53団体が参加した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/26	さいき文化センター	約 2,000 人	200 人

- ・ささえ愛ネットはつかいち佐伯・廿日市両支部の協力により、手話・点訳・点字の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動およびサロン活動を紹介した。
- ・佐伯地域の全社会福祉施設が参加し、市民と交流ができた。
- ・新たに佐伯中学校吹奏楽部による協力を得て、ステージ演奏を開催した。

(3) すこやかプラザまつり (吉和 自主・共募 30千円)

「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/1	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	約 200 人	4 人

- ・支所、包括支援センター、よしわせせらぎ園、廿日市人権擁護委員およびボランティ

アよしわと協力してスタンプラリーを実施した。

(4) おおの健康福祉フェスタ

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/5	大野福祉保健センター	3,500人	400人 ※前後の準備・撤収ボランティアを含む

- ・各地区社協の活動、老人クラブ「万年青会」の作品等を展示した。
- ・大野中学校・大野東中学校生徒会が生徒会活動の紹介を行ない、ステージの進行役も担った。

(5) 地域ふれあいフェスタ(宮島 自主・共募)

福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/1	宮島福祉センター	200人	110人

4 共同募金運動協力事業(自主)

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動を展開し、目標額13,889,000円の達成に努め、達成率は97.3%(前年度:100.3%)だった。

(単位:円)

	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
戸別募金	4,140,877円	1,141,100円	239,000円	2,509,900円	220,159円
街頭募金	18,377円	0円	0円	0円	21,837円
法人募金	293,350円	133,000円	105,000円	199,000円	10,000円
学校募金	37,722円	26,974円	2,538円	6,591円	0円
職域募金	139,510円	14,140円	11,500円	85,679円	0円
イベント募金	41,354円	19,689円	4,800円	0円	0円
その他募金	216,081円	0円	18,307円	1,880円	42,960円
歳末募金	0円	1,086,500円	0円	2,517,052円	204,400円
合計	4,887,271円	2,421,403円	381,145円	5,320,102円	499,356円

総計 13,509,277円(前年度 13,921,014円)

5 日本赤十字社社資募集協力事業(日赤 1,529千円)

赤十字事業の趣旨および必要性の周知を行い、社資(社費・寄付金)を募集した。5月を社資募集運動月間として、目標額13,926,000円の達成に努め、達成率は76.6%(前年度:80.6%)であった。

また、火災などの災害に対し救援物資を交付するとともに、広島県大雨災害をはじめ国外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集および周知を図った。

- ・日赤社資募集実績 ()内は前年度実績

一 般 社 資
10,673,799円(11,231,120円)

～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、そうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図り、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

1 職員人材育成事業

人材育成として、これからの市社協の方向性を共有するため、「職員全体研修会」を4回、新規採用職員に対し市社協の基本的事項を取得させるため「新規採用職員研修」を7回開催した。併せて、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修に積極的に参加した。

(1) 職員全体研修会

開催日	テーマ	目的
8/2	中期経営計画の実施について	中期経営計画の実施のため、ディスカッションを行う。
9/19 10/10	1 福祉サービス利用援助事業及び成年後見制度について 講師：広島県社会福祉協議会 あんしんサポートセンターかけはし 主任 的場 淳子さん 2 本会による法人後見事業実施準備の進捗状況と実施方針等について	
1/17	地域福祉のグランドデザインと生活困窮者自立支援事業の取組み状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・社協の今日的課題、社協を取り巻く動向、社協に求められているものを学習 ・生活困窮者自立支援事業について学習
2/28	地域支援事業と社会福祉協議会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの地域支援事業について学習する。 ・地域支援と自分の業務関連について、ディスカッションを行なう。

(2) 新規採用者研修会

開催日	テーマ	目的
4/23	就労条件等	就業における遵守事項、勤務条件などを知る。
7/25	社会福祉協議会が行なっている事業について（1）	事業目的を把握し、適切な事業運営に繋げる <ul style="list-style-type: none"> ・事業体制の把握 ・独自事業の背景の把握
8/21	社会福祉協議会の役割・機能と働き方	社会福祉協議会がすべきことを再認識する。
10/1	社会福祉協議会の経営・経理	経営状態等を知ることによって、事業を展開する上で、経営感覚を持ちながら行えるようにする。

1/29	社会福祉協議会が行なっている事業について（2）	平成 26 年度の事業計画について
2/2	採用されて 10 カ月を経過して	入職後の自己点検及び整理を行う。
3/9	社会福祉協議会の運営について	組織・法的根拠等を把握する。

2 自主財源の確保・組織のPR事業

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対する謝意を表すため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなどPR活動に取り組んだ。また、昨年同様、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

平成26年度 役員会等開催状況

1 理事会

	開催日	主な議題	出席状況
平成26年第2回	5/22	(1)H25 年度事業報告(案)及び資金収支決算(案)について (2)評議員選任の同意について	13人
平成26年第3回	11/14	(1)定款の一部改正(案)について (2)評議員選任の同意について	14人 書面1人
平成27年第1回	3/19	(1)経理規程の全部改正(案)について (2)H27 年度事業計画(案)及び資金収支予算(案)について (3)H26 年度資金収支予算の補正(案)について	16人

※出席者には、監事を含む。

2 正副会長会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成26年第2回	9/8	(1)法人後見への取組みについて (2)中期経営計画の実施について	3人
平成26年第3回	10/20	(1)平成27年度事業計画(案)及び予算編成方針(案)について (2)平成27年度予算編成方法について (3)平成27年度予算作成等のスケジュールについて	3人
平成27年第1回	2/26	(1)H26 事業計画(案)及び資金収支予算(案)について (2)経理規程の全部改正(案)について	3人

3 専門部会

(1) 財務部会・事業部会合同会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成26年第2回	10/24	(1)H27 年度事業計画(案)及び予算編成方針(案)について	7人
平成27年第1回	3/5	(1)H27 年度事業計画(案)及び資金収支予算(案)について	7人

(2) 総務部会

	開催日	主な議題	出席状況
平成27年第1回	3/4	(1)経理規程の全部改正(案)について	4人

※出席者には、監事を含む。

4 評議員会

	開催日	主な議題	出席状況
平成 26 第 2 回	5/29	(1)H25 年度業報告(案)及び資金収支決算(案)について (2)理事の選任について	30 人
平成 26 年第 3 回	11/20	(1) 定款の一部改正について (2) 理事の選任について	30 人
平成 27 第 1 回	3/24	(1)H27 年度事業計画(案)及び資金収支予算(案)について (2)H26 年度資金収支予算の補正(案)について	31 人

※出席者には、監事を含む。

5 監査会

開催日	主な内容	出席状況
5/14・15・16	H25 年度事業報告および資金収支決算に対する監査	3 人
11/18	H26 上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2 人
11/25・2/17	H26 上半期の事業に対する中間監査	1 人

6 役員等研修会

開催日	主な内容	出席状況
9/19	1 福祉サービス利用援助事業及び成年後見制度について 講師：広島県社会福祉協議会 あんしんサポートセンターかけはし 主任 的場 淳子様	理事 6 名 監事 3 名 評議員 15 名
10/10	2 本会による法人後見事業実施準備の進捗状況と実施方針等について	理事 4 名 評議員 6 名